

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果市町村受理日	平成25年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400481-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して11年を迎えグループホームとしての役割も変わってきました。開設当初からの利用者も新しく入所した利用者も医療機関との連携が欠かせなくなってきました。御家族とは毎日の様子、身体状況の変化をこまめに連絡、対応をとり信頼を得ています。毎月の行事となっている音楽療法では、地域住民の方との交流が7年になります。又、消防訓練に参加して頂いたり町内のお祭りにはすべて参加したり地元へ根付いたホームであります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

消防署や公園など近隣施設に恵まれた環境の中、開設から11年を迎えるホームである。運営推進会議を定期的に行い、地域の方々を積極的に呼び込み地域密着型サービスへの取り組みを行うことにより、地元へ根付いたホームとなってきている。ケアプランの評価・見直しが定期的に行われており、書類も誰が見てもわかりやすく整理されている。担当を決めることにより全職員が前向きな取り組みを行い、プランに沿ったケアが行えるようになっている。リビングの雰囲気は家庭的で、利用者の思いや主張を自由に発する事ができる環境にある。職員の接し方にも一人ひとりを受け止める受容力の大きさを感ずる。若い職員の発想を管理者は快く受け入れ、ベテランの力と若い力がマッチして、利用者主体のケアの実践に繋がっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は夢家族の理念である、安心感を常に心がけている。 利用者が安心して暮らせるホーム作りを実践している。	理念『安心感』が定着し、管理者・職員は共有して丁寧なサービスを継続している。ホームの利用者だけでなく、近隣住民の安心に繋がる取り組みも積極的に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法を通して老人クラブの交流は7年となり、今では利用者の名前も覚えてもらっている。 消防訓練にも住民が参加し勉強されている。	音楽療法を通じての交流だけでなく、行きつけの料理店では、ホームの方が食べやすい献立に変えてくれることもある。ホームの研修に近隣の方々が参加されるなど、地域に溶け込んだ事業所になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内老人クラブや近隣住民の方が音楽療法や消防訓練に参加して下さることにより、認知症の理解や支援の方法を勉強して下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では高齢福祉課、市議員、民生委員、家族、地元住民が参加し活動報告現状報告をする。運動会、消防訓練も参加して頂いている。	会議は2か月に1回開催され、家族や地域住民等の参加で建設的な意見が出され、会議録も整理されている。同時開催の消防訓練や心肺蘇生法の研修には、地域住民の参加も多くあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の市議員や地域包括支援センターの職員が必ず運営推進会議に参加して下さり、現状報告やケアサービスの取り組みを伝えている。	生活保護の方があり、福祉課と関わる事が多く助言等受けている。運営推進会議だけでなく、ホームの近況報告等をしながら高齢福祉課との連携を深めるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて代表者及びすべての職員が良く理解をしております。ただ、下肢筋力低下の利用者のベット柵、尿道カテーテルの利用者のつなぎ服は家族の了解を得ています。	身体拘束の意義を職員間で話し合い、理解した上でベッド柵やつなぎ服着用の利用者がある。家族の同意書も取っている。身体拘束排除に向けての取り組みを少しずつ行っているケースもあるが、経過観察の書類作成がなされていない。	利用者の行動を抑制する行為については慎重な対応が求められる。家族の同意書・実施期間を含め排除に向けての取り組みの様子等、記録の整理をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待防止の勉強会を毎年施設内研修で実施しておりその理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護研修を受けておりますし、成年後見制度も経験しております。職員は施設内研修で理解を深めてまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は十分な説明がなされている。改定の際は、文章によって理解納得をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族は意見要望をいつでも申し出る雰囲気になっています。それらの希望はミーティングでも話し合い運営に反映させている。	利用者の意向は日常的な会話の中から把握し、家族の意見は面会時に一緒に話を聞いている。貴重な意見は会議等で話し合い、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はミーティングの他に日常いつでも職員の意見やケアマネのアドバイスを聞く状況にあり業務に反映させている。	職員は毎月のミーティングや申し送り時、さらに日頃のケアの現場において、管理者に直接意見を伝えている。代表者は些細なことに対してもいつも聞く耳を持ち、現場の意見を尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員一人一人の実績や状況を把握し働きやすい職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人一人の力量を把握しており、法人内外の研修を受ける機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が地元で実施される勉強会に参加する機会を設け、同業者と交流する事が出来る様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入初期の本人は不安なのが当然であるが家族からの聞き取りをもとに、職員全員ケアマネと話し合い本人の安心確保に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特に家族との話し合いを大切にして不安要望を聞き取りケアにつなげ信頼を得る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で管理者とケアマネが本人家族と面談してすぐに必要な支援と他のサービスも考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の個性や身体状況に合わせて出来る範囲の作業をしてもらう支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と電話、生活便り、面会の時のお話などで常に連携をとり共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば自宅への一時帰宅、お墓参りなど希望される場所へ出掛ける支援をしている。	友人の来訪や行きつけの喫茶店への外出など、利用者の思いを大切に、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。男性利用者には、系列事業所男性職員の応援にて馴染みの場所へ外出する時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性に合わせた席の配置がしてあり、気の合う利用者同士で交流できる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	しよくいん		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフにより、受け持ち担当制を導入してよりきめ細かな対応を行い、興味のあることなどの把握を行っている。	各職員が担当する利用者の生活歴や病歴、他のスタッフの気づきや小さな変化等を把握して記録に残し、理解を深めようとしている。情報の共有を図り、その日の思いに添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネやご家族により、情報を聞き取り、趣味や嗜好を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本社と連携を行い、運動の為公園へ散歩に同行して頂いている。 車いすの方押していただくなど出きる事を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングでケアカンファレンスを行っている。又、ご家族様面会時に要望等を聞き取っている。	職員が担当資料を持ち寄り、毎月の検討会議に積極的に参画するようになった。書類は常駐のケアマネジャーにより定期的な見直しが行われ、整理・保存されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録において特記事項を設け、その日の状態がすぐに分かるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢夫婦だけの世帯で過ごしていたため、入所していた夫の事が気がかりとなった病弱な妻の為、月1回はホームで一緒に長時間過ごすことを提案実践に向けて調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この町内には文化施設、商業施設、医療施設とすべてそろっており、それらを活用して豊かな生活をする支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診以外に必要であれば受診をすることができ、更に必要であれば羽島市民病院へも送ってもらえる。	かかりつけ医の継続的な支援を行っている。協力医・家族・事業所との受診前後の情報の共有は、その場で連絡を取り合っている。眼科・歯科などの医療機関が近くに点在しており、通院に恵まれた環境である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護以外にも身体状況に変化があれば相談して訪問して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合入院時、情報提供書を作成し直近のケアプランを添付して、病院側に状況を伝えている。又、担当ナースより電話も多く情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた利用者の御家族様・主治医・主任と今後のケアについて会議を行い実践している。	入居時、重度化指針の書類を基に、本人家族と充分話し合っている。協力医・看護師のバックアップもあり、その都度家族の意志統一と確認を図りながら看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力を得て心肺蘇生や避難訓練を毎年行っており職員全員が対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	むきあっている	音楽療法のメンバーや運営推進会議を通して地域住民が参加し、「やっぱり実際にやってみないとあかんネ」という感想を得ている。救命救急処置の講習会を周囲に呼びかけて開催したり、夜間対応の訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の個性や身体状況に合わせた声掛け介助の仕方を心がけている。	その人の人生で最も輝いていた時を大切に して、向き合っている。利用者があるまま口 に出す不平不満を職員がさりげなく受容して おり、その雰囲気は何とも言えず気ままで自 由な安らぎを醸し出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	食事・入浴などあらかじめ決められてはいる が、本人の気分や体調により自己決定出来 る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気持ちや体調を考慮して 自由な過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	利用者本人の好みとこだわり身体状況に合 わせた服装をして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者には介助や見守りが必要な人が多 いので職員は交替で利用者と食事するよう にしている。	手作りの食事はバランスが良く、食材も豊富 である。献立は決して豪華ではないが、塩分 も控え目で健康に配慮した家庭の味である。 既成の冷凍食も多い昨今、食事を重要なも のとして捉え、地道な努力がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	普通食・キザミ食・ペースト食と形態を分け、 水分補給も一人一人の身体状況に合わせ た努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	一人一人の口腔状態に合わせ歯磨きの 人、うがいの人、イソジン使用で口腔ケアス ポンジの人と3つに分かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛けはこまめにして昼夜を問わず、介助している。下肢筋力低下の人は夜間はポータブルトイレの使用で自立している。	昨年の課題であるトイレの出入り口については、カーテンの前に移動式の小型の衝立を置いて、人目を遮る工夫がされている。利用者一人ひとりの排泄の様子からその日の体調を察知し、介護に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜嫌いであった利用者が野菜を摂取できるようになり排泄状況がよくなった事例がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人の体調や気分に合わせて、曜日を変更したり清拭にしたりしている。夏場は週3回と体の清潔に努める。	入浴時の体調や気分に合わせて臨機応変に対応している。夏はシャワーで汗や清潔に留意し、重度の利用者には手足浴を行い、せめてもの心地良さを味わってもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やおやつ時間はあらかじめ決められているものの一人一人の状況に合わせて、いつでも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用する薬の事は職員全員が理解しており症状の変化があった場合はかかりつけ医に対応をたずねる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣向に合った1日を暮してもらえるように編み物、塗り絵など楽しい話題を提供している。又、掃除の好きな利用者さんがおみえになり、傷つかないよう声掛けをし、支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に合わせて買い物、食事、モーニング、墓参りなどどこにでも介護車を使用して出かけられるよう支援している。	買い物や馴染みの店での散髪、時には別れて暮らす高齢の夫婦が共に過ごす時間のために外出支援をするなど、日常生活支援の一つとして、個々のニーズに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の時点でお金を持っていたい人はその気持ちを尊重して持っていていただきその金額も把握している。欲しいものを買うことが出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話を自由にできるようになっている。いつでも家族、友人と連絡が取れるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お風呂場の洗剤、掃除道具などはカーテンで閉め、見えないようにしてある。 玄関前は花を置き季節感を取り入れ夏場はすだれで日光を調節する。	食堂を兼ねた居間は、トイレに出入りする人、キッチンの水音、テーブルで記録を書く職員と生活感に溢れている。若い職員が壁のレイアウトを工夫し、楽しさを創り出している。ソファの背もたれの高さが、利用者にとって心地良さそうであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のホールでは一人一人が思い思いの過ごし方をして頂いている。 TV、編み物、雑誌を読むなど自由にして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には若い時の活躍の写真、家族の写真、寄せ書きなど個性のある部屋となっている。	混乱に配慮し、使い慣れた寝具を持参している。写真で自分の着物姿を眺めるためにアルバムを持ち込んでいる人、アニメキャラクターが好きで壁一杯に飾っている人など、それぞれに個性的な居室の雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべて手すりがついており、歩行の自立、トイレの自立を目指している。洗面台も自立歩行の人は自分でして頂いている。		